

## 創立134周年記念

聖書 ルカによる福音書 10 章 25-37 節 (新約 126 頁)

25 すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」 26 イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、27 彼は答えた。「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」 28 イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」

### 英和での出会い

本日、ここに静岡英和女学院は創立134周年の記念日を迎えました。この一年も変わらない神様の恵みと導きの下、共に過ごしてきた日々感謝を覚えています。またご家族の皆様、PTA、母の会、後援会、同窓会、大学、学院、維持協力会、教会、地域の皆様のご理解とお支えにも共に感謝申し上げます。

最初に、この一年の間にこの世を去られ、神様のみもとへ旅立たれた皆様のご家族、卒業生、奉職された先生、職員の方々を覚えて魂の平安と残されたご家族の上に神様の慰めと励ましを祈りしましょう。しばらく目を閉じて黙祷しましょう。黙祷

(黙祷)

ありがとうございました。

また静岡英和学院では創立記念日を覚えて、永年勤続された先生、職員の方々に感謝を献げています。今年、英和女学院中高では永田和也先生と山北力先生が勤続25周年を迎えられました。皆さん、両先生に感謝と祝福の拍手を送りましょう。(拍手)

さてこの一年も感染症の予防に努め、共に学校生活を過ごしてきました。現在は感染者が世界でも希なほど減少していますが理由はよく分かりません。今後の感染拡大も予測され、かえって用心深くなっている気運も感じます。

しかしマスクをしたままでも讚美歌が歌えるようになりました。少しずつ皆さんの声も出てきました。部活動も活気を取り戻しつつあるように思います。県内ですがスタディーツアーも再開されました。そして英和祭では二年ぶりにソーラン節も復活しました。また校長室のすぐ上の教室からは随分元気な声も聞こえるようになり、思わず“オーマイゴッド”と心の中で叫びながらも微笑ましく感じています。

感染症で中止、延期、自粛の生活の中でも毎朝祈りの時が与えられ、少しずつ弾けるような皆さんの姿を見守りながら、少しずつ英和らしさを取り戻りつつあるキャンパスに喜びと感謝を感じています。

この一週間、冷え込みが少しずつ厳しくなり始めましたが、学年を越えてクラス毎に早朝祈祷会に集い、友だち、先輩のお話を聴きました。

「目標に向かって進みましょう」「お互いみんな違う、でもみな同じ人間だ」というお話がありました。そして朝の礼拝では同窓生が「在学時代の思い出」「生きる厳しさと喜び」を語って下さいました。

私は伺いながら「私」が努力したから、「あなた」が助けてくれたからよりも、「私たち」が出会ったからという神様の導きを想いました。

イエスは律法の専門家から「隣人とは誰ですか」と尋ねられた時、追いはぎに襲われた人を助けたサマリア人の話をしました。誰が誰を助けた。誰が誰に助けられた。助けた人、助けられた人という関係に、私たちは注目すると思います。

しかし助けた人は「当たり前のことをしただけ」と思っているのではないのでしょうか。倒れ、回復の見込みもわからない人を、自分の時間もお金も差し出す人が見返りを求めてそこまでするのでしょうか。私はこうしたことはいいことだから、素晴らしいことだから、このサマリア人を模範にして、手本にして行いましょうというのは、自分の善い行いを誇っていた律法の専門家と変わらないと思います。

私自身がもしその場にいたらサマリア人と同じようにできるかどうか分かりません。ひょっとしたら祭司やレビ人のように通り過ぎてしまうかもしれません。

「私」でもない、「あなた」でもない、大切なことは「お互いが出会った」ということです。そして、それは結果が良かった悪かったということで幸せか不幸かと判断されることでもありません。私たちが、あなたも私も共に英和で出会い、互いにけんかもしたし無視もした、でも互いに慰め励まし、愛し合う時も与えられたことが誰にも説明できない素晴らしいことです。

茶道の言葉で「一期一会」という言葉があります。これは旅先で一回だけ会った。人生で一度きりの出会いという意味ではありません。本来は毎日会う人、生活を共にする親しき仲にも、今日が最後と思って互いを敬い尊び生活するという事です。つまり出会い、共に生活する喜びと感謝を献げることです。

神様は134年間、毎朝毎朝、聖書のことばで私たちに慰め励まし、共に喜びと感謝を献げる時を与え続けて下さいました。これが神様の愛です。それは英和生、あなたたちの存在、交わりそのものが、あなたがたの宝であるばかりか、英和の宝であり、神様の宝だからなのです。

黙祷しましょう

私たちを愛し、慰め励まし、育まれる主よ

あなたは昔、遠いカナダの地でカニングハム宣教師によき志を与え、この西草深の地に「静岡女学校」を設立して下さいました。あなたの深い御心に感謝します。しかしこれまでの歩みの中には聖書を読むこと、礼拝を献げることが禁じられた時もあり、また戦時中の静岡大空襲では校舎が全焼するという悲しいこともありました。戦後、再び同窓生はじめ海外の宣教師、信徒の方々の篤い祈りとご支援によって英和女学院は復興しました。そして、今、世界の人たちと共に、私たちは新たな困難と向き合っています。どうか日々、感染症と向き合う医療従事者の方々 エッセンシャルワーカーの方々を安らぎの時をお与え下さい。そして世界の人たちと共に喜びと感謝を献げる日を迎えることができますように。この言い尽くせない感謝と願い、尊き主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン